

い空間」を視覚的空間・図式的認知とするならば、ミンコフスキーのいう「明るい空間」の修復、すなわち「明るい空間が暗い空間に浸透した状態」や「明るい空間と暗い空間の混交・不調和の状態」からの脱出といえるかも知れない。

#### 4) うつ病に合併したパーキンソン病の1例

酒井美和子・田中 敏恒 (新潟大学)  
飯田 眞 (精神医学教室)

今回、我々は、抑うつ状態にパーキンソン病が合併し、パーキンソン症状の改善と並行して抑うつ状態も寛解に至った症例を経験した。症例は56才の女性である。本症例は恐慌様発作で発症し、後に抑うつ症状が出現した。sulpiride 投与により抑うつ症状は改善されたが、同時にパーキンソン症状が出現した。そのため、抗パーキンソン剤の投与が開始された。しかし、パーキンソン症状悪化に伴い、抑うつ症状も増悪し、この患者は手首を自傷して自殺を図った。その後、抗うつ剤が増量され、一時は精神神経症状共に改善されたが、次第にパーキンソン症状は悪化し、それに伴い抑うつ症状も再燃した。そのため、抗パーキンソン剤を増量したが、パーキンソン症状は改善されず、それに伴い抑うつ状態も再び悪化していった。さらに抗パーキンソン剤を増量したところ、パーキンソン症状は軽快し、それに伴い抑うつ状態も寛解した。

本症例は精神症状から見て大別すれば第一期と第二期に分けられると思われる。第一期は恐慌発作と抑うつ症状のみ認められた時期であり、第二期はパーキンソン症状が出現し、その悪化や軽快に伴い抑うつ症状も動揺した時期である。寺元らはパーキンソン病に見られる抑うつ状態は、パーキンソン病の精神症状としてのうつ、反応性うつ、内因性うつの3つが考えられ、その発症要因としては多因的に考えざるをえないと報告しているが本症例においても同様であった。第一期は神経症状を伴わない抑うつ期であり、通常の内因性うつ病としての治療が奏効したと思われる。第二期の抑うつ状態は、内因性抑うつ、パーキンソン病の部分症状としての抑うつ、心因性抑うつの三者の複合体としての抑うつ状態であると考えられ、内因性要因については抗うつ剤の投与を行い、しかもこの時期は、抗うつ剤の副作用によるパーキンソン症状の出現、増悪に注意しながら薬物療法をおこなった。また心因性要因については、パーキンソン病、うつ病の予後に対する患者の過度の不安を取り除く精神療法的

配慮を行った。パーキンソン病の部分症状としての要因については抗パーキンソン剤の投与を行った。その結果、精神神経症状の著名な改善が得られた。

本症例のように、身体疾患、特に神経疾患に認められる抑うつ状態は内因性、外因性、心因性の要因が全て病像に関連していることがあり、三者が病像に与える影響度の大きさ、割合など観察しながら、多次的な治療を試みるべきなのであろう。

#### 5) うつ病に睡眠時無呼吸症候群を合併した症例について

田中 弘・坂戸 薫 (新潟大学)  
飯田 眞 (精神医学教室)

症例は、44才男性。1992年10月頃より、食欲不振・易疲労感・下痢等の症状が見られるようになり、11月末A精神科で“神経症性うつ病”と診断され薬物療法にて改善。翌年10月から同様の症状が出現し、11月B精神科を受診し、大うつ病と診断され、薬物療法により、1994年3月までにほとんど認められなくなった。気分の落ち込み、日中の眠気、頭痛、食欲不振、下痢、便秘症状は間欠的に増悪・軽快するため、精査目的で新潟大学精神科を紹介され7月に入院となった。投薬に関係なく軽快した。また、うつ症状を認めることは全くなかった。入院中、偶然睡眠時無呼吸症候群(重症度は中等度以上)が発見された。退院後、しばらくは精神状態は安定していたが、9月より身体症状のない抑うつ状態のため第2回目の入院となる。睡眠時無呼吸症候群治療用のマウスピース装着により無呼吸指数17.8から3.2回/時と改善され、経過観察となった。【考察】本症例の主な症状は、抑うつ気分、気力・喜びの減退、精神運動制止、睡眠障害、思考力・集中力の減退、食欲不振、易疲労感、性欲の減退、傾眠傾向、腹部膨満、頭痛、下痢といった症状で、DSM-III-R 診断では、Major depression。症状は2週間以上続いたり、投薬に関係なく数日で軽快した。安定している時期に日中の眠気、頭痛、下痢、便秘といった症状がしばしば認められている。という点から、うつ病の典型的なものではないと言える。ところで、本症例は偶然観察された激しいびきと睡眠時無呼吸から睡眠時無呼吸症候群と診断された症例でもあり、睡眠時無呼吸症候群の精神症状としては、易疲労感、活動性の低下、易怒性、多動性、記憶力低下、日中の眠気、性欲の減退、頭痛など又、不眠や抑うつ状態を生じやすい性格傾向を持つ患者が不眠に陥りやすいとも報告されている。以上